

資料6

第33回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
2013年3月3日

平成25年度のモニタリング計画

1. 調査の枠組み

- 生態系モニタリング専門委員会では、2つの枠組みでモニタリング調査を考えて行くことが合意されました。
- **太郎右衛門地区全体の調査** → 地区全体の環境を良好な状態で管理していくために必要な情報の収集
- **自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査)** → 目標種の生態に応じた情報の収集

●太郎右衛門地区全体の調査

(1段階)網羅的な調査

- 地区全体でどこにどのような生物が生息・生育するかという情報は現時点で不十分なため、これを把握します。



(2段階)①貴重な種および良好な環境に対する調査

- 保全管理が必要となる貴重な種や良好な環境の実態を把握します。

(2段階)②外来種などの問題生物に対する調査

- 抑制管理が必要となる外来種などの問題生物の実態を把握します。

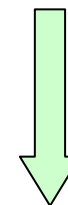
●自然再生事業の実施計画に関わる調査

(1段階)目標種の出現の有無を確認する調査



(2段階)目標種の生息・生育実態を確認する調査

- 繁殖や採餌など、整備地の利用実態を把握します。



(3段階)目標種の定着状況を確認する調査

- 整備地での定着状況を把握します。

2. 平成25年度のモニタリング調査計画(案)

- 平成24年度から継続する調査を中心とした平成25年度のモニタリング調査のスケジュールは表の通りです。
- 「ハンノキ育成試験地」と「下池ハンノキ移植地」での調査は、平成24年度と同様に協議会委員との合同調査として想定しています。
- その他の調査についても、可能な限り協議会委員の協力を頂いて実施していきます。

区分	場所	テーマ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
太郎右衛門地区全体の調査	旧流路・全域	水位・地下水位													・連続観測
	旧流路	水質	●		●		●		●		●		●		・6回調査
	全域	表流水			●						●				・かんがい期と非かんがい期を各1回
	全域	植生							●						・10月：植生の判別がしやすい時期
	全域	カヤネズミ											●		・12-2月：カヤネズミの非繁殖期
	全域	ミドリシジミ			●										・6月：ミドリシジミの確認適期
自然再生事業の実施計画に関わる調査	上池旧流路(当面の整備対象範囲)	植物		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：オナモミ夏季の確認適期
	上池旧流路整備地	植物		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：全般的な水生・湿生植物の確認適期
		鳥類			●										・6月：繁殖期
		魚類		●											・5月：コイ科魚類の産卵期・稚仔魚期
		両生類												●	・2月：ニホンアカガエルの産卵期
	上池モトクロス場跡地整備地	植物		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：全般的な水生・湿生植物の確認適期
		鳥類			●										・6月：繁殖期
		両生類												●	・2月：ニホンアカガエルの産卵期
	ハンノキ育成試験地	ミドリシジミ			○										・6月：ミドリシジミの確認適期
		ハンノキの高さ(群落)、生育状態(毎木)		○							○				・5月：生育初期 ・10月：生育末期
下池ハンノキ移植地	ハンノキ(毎木)の高さ、幹径、生育状態		○							○				・5月：生育初期 ・10月：生育末期	

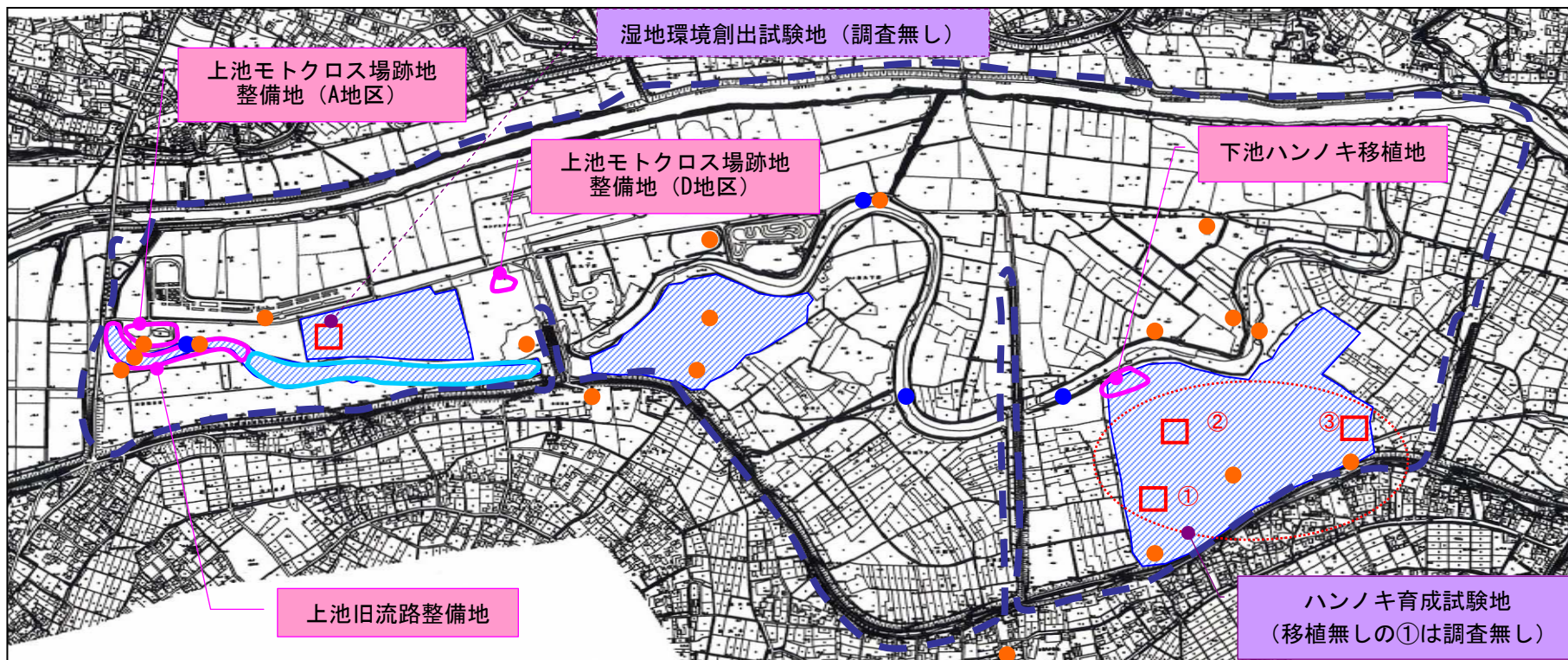
【オレンジ】：H25から開始する部分です。

【緑】：H24から継続する調査です。

●荒川上流河川事務所調査
○協議会委員との合同調査

2. 平成25年度のモニタリング調査計画(案)

●調査範囲は図の通りです。



太郎右衛門地区 全体の調査	対象範囲	---
	水位・地下水位計設置地点	●
	水質調査地点	●
自然再生事業の 実施計画に 関わる調査	当面の整備対象範囲	○
	試験施工地	□
	整備地	○

自然再生事業の実実施計画範囲	▨
----------------	---

※H24から変わったのは、「上池旧流路整備地」の範囲が下流側に拡大した部分と、水位・地下水位計の設置地点再編が行われた部分である。

3. 具体的な調査の実施内容（案）

1) 継続する調査

区分	目的	目標	テーマ	理由	実施内容
太郎右衛門地区全体の調査	地区全体の管理上の課題を確認する。	【1段階】 基礎情報を収集する。	(無し)		
		【2段階】 ①貴重な種や良好な環境の実態を把握する。 ②外来種などの問題生物の実態を把握する。	(無し)		
自然再生事業の実施計画に関わる調査	事業の効果を検証する。	【1段階】 目標種の出現の有無を把握する。	●上池旧流路（当面の整備対象範囲） ○植物相：生育種	エキサイゼリ・オナモミへのH24の冠水の影響(効果)を確認する。	【H24と同様】 ・生育種を確認・記録（希少種は株数や生育状態を記録） ・エキサイゼリが出現する春季とオナモミが生育する夏季
			●上池旧流路整備地【H24年度施工範囲含む】 ○植物相：生育種 ○鳥類：生息種 ○魚類：生息種 ○両生類：生息種	目標種が出現するか確認する。	【H24と同様】 ・生育・生息種を確認・記録（希少種は株数・個体数や生育・生息状態を記録） ・植物は湿地性の希少種が生育する春季・夏季、鳥類は多くの種が繁殖する初夏、魚類は多くの種の産卵・稚子魚が確認できる春季、両生類はニホンアカガエルが産卵する早春季 (モトクロス場跡地整備地は魚類調査無し)
			●上池モトクロス場跡地整備地 ○植物相：生育種 ○鳥類：生息種 ○両生類：生息種	目標種が出現するか確認する。	
			●ハンノキ育成試験地 ○ハンノキ：樹高（試験区画単位）、育成状態（毎木） ○ミドリシジミ：飛来状況	ハンノキの生育状態を確認する。 目標種ミドリシジミの飛来状況を確認する。	【H24と同様】 ・ハンノキの樹高（試験区画単位）、生育状態（毎木）を記録（5月と10月） ・ミドリシジミが出現する初夏に飛来状況の調査
			●下池ハンノキ移植地 ○ハンノキ（毎木）：樹高、幹径、育成状態	移植木の生育状態を確認する。	【H24と同様】 ・ハンノキ（毎木）の樹高、幹径、生育状態を記録（5月と10月）
		【2段階】 目標種の生息・生育実態を把握する。	(無し)		
【3段階】 目標種の定着状況を把握する。	(無し)				

3. 具体的な調査の実施内容（案）

2) 新規に実施する調査

区分	目的	目標	テーマ	理由	実施内容
太郎右衛門地区全体の調査	地区全体の管理上の課題を確認する。	【1段階】 基礎情報を収集する。	●表流水 表流水の分布 水の流れ、収支	物理的な基盤として、現状の湿地分布や水の流れを把握しておく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・全域踏査 ・水路・たまりなどの「表流水」を記録 ・確認された「表流水」について、流向、流速、水深、水路幅や水面積などを目視で簡易的に記録 ・地区内の水収支に大きく関わる「表流水」を対象に流量観測（朝・昼・夕ノ回） ・かんがい期、非かんがい期の2回実施
			●植生	環境の基盤として定期的に最新情報を確認しておく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> （前回調査は平成20-21年ですが平成23年にも河川水辺の国勢調査を実施しているため、その見直し作業とします：参考としてH23の植生図を次ページに示します） ・全域踏査し既往植生図からの変化を確認し作図 ・注目すべき群落の断面構造図を作図 ・秋季実施 * 植物相についても、アゼオトギリなどの事業実施計画範囲では確認されていない重要種に留意する。
			●特定の「場所」の調査	（良好な環境の場所を把握しておく調査が必要）	・場所の検討を行い、可能であれば調査を開始する。
		【2段階】 ①貴重な種や良好な環境の実態を把握する。 ②外来種などの問題生物の実態を把握する。	●ヤマコウモリ	自然再生の対象ではないが、樹林を好む貴重な種で確認例がある。	・情報収集を行う。
			●カヤネズミ	将来に期待する生態系の目標種である。	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：全域 ・時期：12月～2月
			●ミドリシジミ	自然再生の対象である。食草であるハンノキのうち若齢林を好むとされるため多様な齢構成の林の再生を行っているが、実態が不明である。	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：全域（ハンノキ） ・時期：6月下旬
自然再生事業の実施計画に関わる調査	事業の効果を検証する。	【1段階】 目標種の出現の有無を把握する。	（無し）	—	—
		【2段階】 目標種の生息・生育実態を把握する。	●エキサイゼリ 株数、開花・結実状況	自然再生の対象である。4ヶ年連続で出現しているが、開花・結実などの生育実態が不明である。	<ul style="list-style-type: none"> （本項目は状況に応じて実施） ・場所：上池旧流路整備地 ・時期：4月下旬～5月
		【3段階】 目標種の定着状況を把握する。	（無し）	—	—

3. 具体的な調査の実施内容（案）

3) 来年度は実施しない調査

区分	目的	目標	テーマ	理由	実施内容
太郎右衛門地区全体の調査	地区全体の管理上の課題を確認する。	【1段階】 基礎情報を収集する。	●鳥類相	前回はH20のため情報更新のため実施した。次回はH27予定である。	—
			●昆虫類相	前回はH20のため情報更新のため実施した。次回はH27予定である。	—
			●アカガエル類産卵	H25.2に実施。鳥類相・昆虫類相と同じH27に次回実施が妥当と考えられる。	—
		【2段階】 ①貴重な種や良好な環境の実態を把握する。 ②外来種などの問題生物の実態を把握する。	(無し)	—	—
自然再生事業の実施計画に関わる調査	事業の効果を検証する。	【1段階】 目標種の出現の有無を把握する。	(無し)	—	—
		【2段階】 目標種の生息・生育実態を把握する。	(無し)	—	—
		【3段階】 目標種の定着状況を把握する。	(無し)	—	—